

国際協力の  
最前線+α

1



## 省エネ・再エネを進めて 地球温暖化対策に貢献

N社で開発コンサルタントとして働く  
馬場亜希さん



**Q 「開発コンサルタント」というお仕事について教えてください。**

「開発コンサルタント」とは、国際協力事業にかかわる専門家のことで、開発から環境保全までさまざまな分野の計画づくり、調査や事業実施を行います。私はそのなかでも、環境分野の気候変動にかかわる仕事に携わっています。

近年、東南アジアやアフリカの国々では、開発が進み、都市の人口が増え、エネルギーを多く使うようになりました。その結果、地球温暖化の原因といわれる二酸化炭素(CO<sub>2</sub>)などの排出が増えて大きな問題になっています。このCO<sub>2</sub>の排出は、電気や燃料を節約できる省エネルギー(省エネ)の技術や、太陽光や水力、風力、地熱などの再生可能エネルギー(再エネ)の導入・普及によって、大幅に削減することが可能です。しかし、多くの国では省エネ・再エネの設備を導入しても、管理ができず故障して放置されたり、定期的な点検がなくて十分な省エネ効果が出なかったりするなど、課題が残ります。そのため、適切な技術をもった専門家による支援のほか、省エネ・再エネを導入しやすい制度をつくる必要があります。

私の仕事は、環境対策に力を入れている日本の自治体や、優れた技術や管理運営能力をもっている企業と協力して、海外の都市に最適な省エネ・再エネの技術を提案するとともに、地球温暖化対策にかかわる制度づくりを支援することです。

**Q 現在、具体的にはどの地域でどのようなことをしているのでしょうか。**

私はおもにインドネシアやミャンマーなどでの現地調査を行っています。省エネや再エネの技術にはたくさんの種類があり、国や地域によって決められた予算や必要な技術の段階があるので、高価で最新の技術が必ずしも現在必要とされるとは限りません。そこで、現地の関係者からいま困っていることを聞いて、現場に行って具体的にどのような技術が適しているかを調べ、事業の提案を行います。

今後はCO<sub>2</sub>を排出しない「ゼロエミッション」の水素技術や地域全体で電気や熱などのエネルギーを効率よく利用する「スマートシティ」の導入が進むと予想されています。そういった時代のニーズにあわせた提案がとても重要です。

**Q 現在のお仕事を選んだ理由について教えてください。**

中学生のとき、科学部の顧問の先生が、近くの大学で開かれた環境セミナーに連れていってくれました。そのセミナーではじめて聞いた砂漠化の問題に衝撃を受けました。それと同時に、ボランティアで進められている植林事業に興味をもち、将来は環境保全にかかわる仕事につきたいと思うようになりました。大学では農学部に進み、大学院では海外の森林計画の研究をしていました。そして、海外の環境問題に取り組める仕事をしたいと思うようになり、現職の開発コンサルタントへ行き着きました。この仕事は民間企業とも政府ともかかわることができ、その結果を次世代に残すことができるので、とてもやりがいがあります。



↑ ①多くの電力を使う冷凍設備 持続可能な開発目標(SDGs)や企業の社会的責任(CSR)のため、環境への負荷が小さい設備や技術の導入が求められている。

→ ②建設中のビル(インドネシア) 大きな病院や商業施設、高層ビルなど、エネルギーを大量に使用することが想定される建物では、特に省エネ技術の導入が積極的に行われる。

